

いろいろなことからだを大切に ここからはじめよう

地域活動支援センター「ココカラ」

末広町二区
電話 85・7188
FAX 85・7189



↑令和3年10月1日ココカラ開所式

令和4年10月1日、地域活動支援センター「ココカラ」が開設されてから1周年を迎えました。

ココカラは、さまざまな障がいのある人が「生活リズムを整えたい」「家族以外の人と交流したい」「就労に向けて体力をつけたい」などの理由から通所を望む人たちの居場所となり、一人ひとりのニーズやペースに合わせた作業を提供し、社会や地域との交流、自立および社会参加を支援する活動をしています。

活動内容

月ごとに1日4コマのスケジュールが組まれており、その中で牛乳パック椅子などの製品の作成や受注している軽作業などを行っています。

そのほかにも、運動や課外授業、勉強会などのプログラムも組み込み、利用者が日常で困っていること、これらなりたいものにあわせて訓練や自立プログラムを行っています。

また、月に1回から2回はお楽しみプログラムを入れて、利用者に楽しみをもって過ごしてもらおうことができるようにしています。

施設の利用者が手作りで作成した牛乳パック椅子やデザインを考案した特製スタンプ入り手ぬぐい、小物類などは施設内で販売しています。ご興味のある人は地域活動支援センター「ココカラ」まで足を運んでみてください。

活動の様子



↑いくらすじ子ボールペンのチャーム制作と取付



↑ココカラ農園のお手入れ



↑牛乳パック椅子



↓特製スタンプ入り手ぬぐい



↑コミュニケーション勉強会

利用者の声

施設を利用していらっしゃる方々に、「ココカラ」に通って良かったと思うところ、活動の中で思い出に残っていることについて、お話を聞きましたので紹介します。

◎自分の悩みを話すことのできるお友達ができました。また、初めは出来なかった製品づくりができるようになり、製品を利用した人から「とても素晴らしい」と声をかけてもらったことが嬉しく、そのことをみんなに報告して、嬉しさを分かち合えたことが嬉しかったです。

◎規則正しい生活を送れるようになりました。そして、素敵な仲間やいい人たちに出会うことができ、お母さんも元気になって楽しそうになったことが嬉しいです。ココカラのような素敵な居場所を作っていたいただきありがとうございます。感謝の心を忘れずにこれからも頑張ります。

◎昨年の10月から通所していて、毎日の軽作業やレクリエーションが楽しいです。思い出に残っていることは、6月30日に施設の皆さんとやったバーベキューです。また、先日行った遠軽のコスモスも綺麗で、思い出に残っています。

◎東京から帰ってきて以降、病気で歩くことができず、図らずも引きこもりと化していましたが、「ココカラ」へ通所して社会復帰の足掛かりとなったと確信しています。中でもパソコン教室をやらせてもらえたことは、つたない知識や経験が少しでも役立つことができたのではないかと考えています。

◎ココカラさんに通っていて、みんなと一緒にいられることがとても楽しいです。

また、思い出に残っていることは、7月の終わりに行われて多くの人が来てくれた販売会と、9月の初めに遠軽のコスモス園に行つて綺麗なコスモスをみんなで見えたことです。

◎高校を卒業してから家にいたので、いろいろな人と交流できる場所ができ、毎日楽しく通うことができて良かったです。思い出に残っていることは、施設の皆さんとコスモスを見に行ったことです。またこういった機会があれば参加したいです。



開所から

一周年を迎えて

施設の運営を行う一般社団法人「アノコ」代表理事の中島亜紀氏に、開所から1周年を迎えてのお気持ちをお伺いしました。

「『ココカラ』を立ち上げるに至った経緯を教えてください」

前職場では、紋別市の基幹相談支援センターで相談支援専門員としており、そのときに実施していた研修の参加者アンケートの中で、雄武町から参加していた人から「特別支援学校を卒業しても戻って働ける場所がない」「地域に通える場所がない」などの声があることを知りました。そこから地元である雄武町のために障がいがあっても通える場所を作りたいと思い、2年前の4月に町の包括支援センターさんに相談したところ、町でも以前から障がいのある人が通える居場所作りを考えていたという話があり、地域活動支援センターココカラを立ち上げるに至りました。

た。販売会などを行うことで少しずつ地域の皆さんにも周知されてきて、賛助会員になってくれたり、活動に協力してくれる人が増えていきました。地域の皆さんの力添えがこの1年、とてもありがたかったです。

「これからどのような施設にしていきたいですか」

さまざまなニーズに対応できるように多機能な役割を担える法人を目指していきたいと思っています。その一つとして、将来的に地域活動支援センターココカラで自信をつけて就労に進む利用者、町内で就労している障がいのある人の就労や生活のサポートなども行えるような事業展開を目標としています。

そのほか、共生サロンのように、障がいがあってもなくても集える居場所を作り、高齢者から子どもまでみんながそれぞれの役割をもって協力し、一つの物を製作したり、楽しめる場所をいつか作れたらいいなと思っています。これからもどうぞよろしくお願いたします。

「開所からどのような一年でしたか」

1年目は、利用者が急な環境の変化で戸惑う事がないように、一人ひとりのニーズやペースに合わせた環境作りを心掛けながら進めてきました。



ココカラスタッフ一同
(左から：小野ルミ子さん、中島亜紀さん、佐々木希美枝さん)